

X I-15 A型肝炎

1 概要

A型肝炎は、A型肝炎ウイルス（HAV）による疾患で、急性肝炎を引き起こす。ウイルスは糞便中に排泄され、糞口感染によって伝播する。先進国では衛生環境の改善により感染者は減少しているが、発展途上国では感染率が高く、国内では海外渡航者の感染としてみられることが多い。

2 臨床症状

HAVは汚染された食品や水などを介して経口感染する。潜伏期間は約2～6週間であり、発熱、倦怠感、黄疸、食欲不振、嘔気などの症状が出現する。血液検査では肝酵素の上昇を認める。一般的に予後はよく、慢性化することはないが、まれに劇症化することがある。

3 診断

A型肝炎の診断には血中のIgM-HAV抗体を確認する。IgM抗体は発症から約1ヶ月後にピークに達し、3～6ヶ月かけて陰性化する。

発症2週間以内の血液中や便中のウイルスをPCR法で検出する。

4 治療

特異的な治療はなく、対症療法が中心となる。

5 院内感染対策

(1) 対策の基本

標準予防策の徹底に加えて、嘔吐や下痢症状がある患者やそれらの症状がなくても周囲の環境を汚染する可能性のある患者に対しては接触予防策をとる。

(2) 患者配置

嘔吐や下痢症状がある患者には個室管理とする。個室確保ができない時には同一疾患患者をひとつの病室に集めて管理（コホーティング）する。

(3) 防護用具の使用・器具の専用化

病室入り口に、入室時に装着する必要がある防護用具（手袋・エプロン）のマグネットを掲示する。病室内には感染性一般廃棄物用の専用ゴミ箱を設置する。

入室時には、入室直前に手指衛生実施後、手袋・プラスチックエプロンを装着し、退室時には防護用具を専用ゴミ箱に廃棄して手洗いを行う。

聴診器、血圧計、体温計は患者専用とし、病室内にワゴンは入れないようにする。

(4) その他の対策

使用後のリネン・タオル類の扱い、日常清掃、退室後の病室清掃は標準予防策に準ずる。